

対話を通じた学びとリーダーシップの旅

Learning Journey in 海士町



主催：ダイアログBar 共催：巡の環

Learning Journey（ラーニング・ジャーニー）は、対話のプロセスが組み込まれた「現場とワークショッププロセスが融合した4泊5日の学びの旅」です。舞台となるのは、島根県隠岐群海士（あま）町。最も近い港からフェリーで3時間かかる離島です。海士町では、様々な取り組みの結果、島の人口2400人に対して200人を超える若者を中心としたIターンが移住しており、全国でも希有な、より良い地域づくりの実践事例として全国的な注目を集めています。

今回のラーニング・ジャーニーでは、観光とも、視察とも違う、現地の実践者と地元の人々を交えた対話を中心にプログラムが進められます。対話のプロセスは、組織開発やコミュニティ構築で実践を積み重ねて来たファシリテーターとともに行われ、ワールド・カフェやオープン・スペース・テクノロジーなど最新の手法と共に、「持続するより良い地域づくりのキモ」「地域課題の奥深くにある日本の構造的な課題」「社会に貢献する1人1人のリーダーシップのカタチ」を見つけていきます。

地域、現場に基づいた、それぞれの新しい一歩を生み出すために旅の仲間にぜひなってください！旅のメンバーは最大12名。濃密な時間の中で深い気づきから、真に効果的な新しい一歩を生み出したいと思います。

詳細、申込み概要については、下記をご覧ください。

What and Why is 海士町？

島根県の北、隠岐郡にある海士町は、本土からフェリーで3時間を要する離島です。承久の乱(1221年)に敗れた後鳥羽上皇がご配流の身とされた地としても有名です。

豊富な魚介類（あわび、さざえ、牡蠣、魚類など）と稲作、酪農によって半農半漁による自給自足を可能にする人口2400人の島に、5年間で若者を中心とした202人がIターンとして移住し、大企業を始めとした日本の最先端を担う若者が集い始めています。

海士町の特徴は、観光地としてでもなく、企業誘致やアートによるまちおこしでもなく、人と人とのつながりによって生まれる「より良い地域づくり」にあります。そして、これまでの”まちづくり”ではなかなか達成されてこなかった持続的なまちづくりの在り方が進められています。

一方で、そうしたより良い地域づくりの取り組みを積極的に行うようになった引き金に、自治体の財政難、人口の大幅な減少（7000人台から2000人台への現象）、極端な少子高齢化、継承者不足、といった課題があります。そして、日本全体の課題とも重なるこれらは、海士町において急激に進行しました。

今後の日本の課題を先取りし、さらに解決の方法を実践しつつある海士町を舞台に、地域に鮮明に現れている日本の社会的な課題を現場から肌感覚を通じて気づき、学んでいきたいと思えます。

島根県隠岐郡海士町のオフィシャルサイト

<http://www.town.ama.shimane.jp/>

ラーニング・ジャーニーとは？

今回の企画は、海士町で様々なコーディネート機能を果たしている「株式会社巡の環」と東京を基点に全国で社会を変革していくための対話の場とプロセスを創っている「ダイアログBar」の共催企画として生まれました。

プログラムの最大の特徴は、観光や視察、体験ツアーと異なり、ワークショップ的なプロセスデザインを融合することで、学びと気づきの質を大きく高めている事です。もし2日や3日のワークショップではなく5日間のワークショップを行ったら一体どんな学びとアクションが生まれるでしょう。今回のラーニング・ジャーニー in 海士町では、4泊5日という時間の中から深く広い学びと気づきが生まれ、また具体的なアクションやプロジェクトの創出が生まれるようなプログラムをデザインしています。



海士町の様子（下段は7月に行った住民参加の対話の場の様子）

また、セミナールームで行われる研修やワークショップと異なり、現場の様々なステークホルダーとの生の対話、ステークホルダー達の現場を訪れる機会が豊富な点が、ラーニング・ジャーニーの特徴です。また、地元でコーディネート業務を行っている株式会社「巡の環」の持つネットワークによって、外部からの関わりを持ちやすい地域づくりの実践者だけでなく、現場の課題につながる行政、地元の方々との対話の機会を設けています。

株式会社「巡の環」のサイト

<http://www.megurinowa.jp/>

ラーニング・ジャーニー in 海士町は、「より良い地域づくり」の最新の現場、地域課題が噴出する離島地域、ワークショッププロセスを組み込んだ深い学び、地元の様々なステークホルダーからの学び、を通じて、社会に構造的にアプローチする視点と実践の種の創出を目指す5日間です。

日程 2010年10月21日（木）～10月25日（月） 4泊5日

（東京から前泊、後泊の必要はありません）

場所（会場／宿泊） 島根県 隠岐郡 海士町

宿泊：元ユースホステルの会場兼宿泊場を貸し切ります。宿泊費は5日間で6,000円程度になります。当日、現金にてお持ち下さい。

食事：食事は朝は材料を持ち寄り参加者同士で暮らしを感じながら料理をします。昼、夜は、地元のお店を巡り、全て実費で都度清算を行います。

アクセス：

東京発の場合：飛行機、JR（新幹線+特急）、夜行バスの3つの手段で最寄りの港まで行けます。飛行機の場合は当日の7：10羽田発、夜行バスの場合は前日の20：30発、JRの場合は岡山経由で前日の18：10発です。いずれも到着は海士町に12：40。プログラムは12：40のフェリーの到着を待って開始します。

アクセスの詳細に関しては、下記をご利用下さい。

（交通の照会）

<http://www.town.ama.shimane.jp/access/>

定員 12名（+海士町の方々） ※ 最小催行人6名

こんな人におすすめです

- ・ 地域、離島の現状を知り、日本が持つ構造的な課題を見つけることで、社会に対して真に効果的で構造的な取り組みが生み出せるアクションやプロジェクトを始めたい
- ・ 一時的な活性化に終わる地域振興策ではなく、持続的なより良い地域づくりを日本でも有数の先進事例の現場のステークホルダーから学び、自らの実践に活かしたい



※今回の宿泊施設兼ワークショップ会場の外見

- ・組織開発やまちづくりで活用される対話の場を設けるテクノロジーと手法（ワールド・カフェ、OST、サークル、など）について、実践豊富なファシリテーターが現場で実際に行う場から学び、自らの活動に取り入れたい
- ・大規模な短時間の場ではなく、少人数で継続的に行われる対話を通じて、より深い学びを手に入れ、自分自身のあるべきリーダーシップの姿を明らかにしたい

特に、以下を目的としています。

- 1：実践的な社会変革につながるアクション&プロジェクトの創出
- 2：地域課題に根ざした社会的活動と共にある次世代リーダーの育成
- 3：地域と都市が循環的につながり合う、支え合う、持続的な社会の構築

参加費用 60,000円（食事・宿泊実費別、現地までの交通費別）

（参加費は、コーディネート費用、ファシリテーターFee、運営費用、備品、現地への謝礼として支出します）

申込みについて 募集の〆切：10月10日（日）

申込みは、下記リンクより申込みフォームにアクセスし、必要事項を記載の上、送信下さい。なお、申込みの完了は、参加費の入金をもってとします。

申込みフォームはこちら：

[https://spreadsheets.google.com/viewform?
formkey=dEJkRGhRTUJ6UF96MDBWbGdfYXh2ZUE6MQ](https://spreadsheets.google.com/viewform?formkey=dEJkRGhRTUJ6UF96MDBWbGdfYXh2ZUE6MQ)



Learning Journey
in 海士町

【注意・連絡事項】

・「キャンセルポリシー」キャンセルの際の参加費返金の取り扱いについては、9月30日までにキャンセルされた場合は全額返金いたします。10月1日～10日までは参加費の50%を、10月10日～10月19日までは参加費の80%を、前日（20日）以降は参加費の100%を、キャンセル料として申し受けます。予めご了承ください。なお、どなたか他の方に参加権を譲っていただくことは可能です。

・9月30日時点で通常参加の申込みが6名に満たない場合、実施の是非については10月上旬に決定し、ご連絡致します。10月の実施を延期する場合、ご入金いただいた参加費については全額返金致します。

・ワークショップでは、写真の撮影、音声の録音を行っています。ワークショップの様子は、Webサイト等の広報手段、講演資料、書籍等に用いられる場合があります。お申し込みの際は、これらについてのご承諾をお願いいたします。

主催：ダイアログBar 共催：株式会社巡の環
(ツイッターアカウント @Dialoguebar ハッシュタグ #LJ_ama)

お問い合わせ先 info@dialog-bar.net (ダイアログBar事務局)

ファシリテーター・プロフィール

西村 勇也 (にしむらゆうや)

ダイアログBar 主宰／代表 ブログ：<http://positivelearning.seesaa.net/>

大阪大学、大阪大学大学院にて6年間、教育心理学を学び、
人間科学 (Human Science) の修士を取得。

08年4月より組織開発のプロセスを活用した対話の場

『ダイアログBar』の活動を開始。

2年間で22回の「対話の場」を設け、約1000人が参加。

現在は、フリーランスのファシリテーター&プロセスデザイナーとして、
組織変革、ESD (Education for Sustainable Development)、地域再生、
大学教育、デザイン、日米交流などの分野で活動。

対話の場づくり、変革のプロセスデザイン、コミュニティ構築に取り組む。

2009年12月より、The Berkana Instituteと協働し、

多数のメンバーと共にArt of Hosting in Japanを始めとした多数の国内プロジェクトを運営。

対話の場を創り、コミュニティをリードするリーダーの育成に取り組む。

著書：「ワールド・カフェの準備と手順マニュアル」 (下記よりダウンロード)

<http://kokucheese.com/event/index/1472/>